



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

7月11日号

令和7年 7月11日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



節目の年に、リオで出会い、ともに笑顔で過ごせる喜び

～ 2学期も、仲間たちと一緒にかけがえのない時を過ごしましょう ～

「入学式・始業式」「モデル校交流」「運動会」「佳子内親王殿下御訪問サンバ披露」「ヴァイオリン奏者近藤くろさん体験教室・校内ホームコンサート」「リオ神戸繋がるプロジェクトビデオクリップ収録参加」など、1学期を振り返ると、充実の日々があったという間に過ぎ去り、大きく成長できました。

学習では、真剣に授業を受け、しっかり話を聞き、自ら意見を発表して、確かな学力が身に付きました。休み時間や教室の会話から、仲間を思いやる優しい心が育ちました。クラブ活動・委員会活動から、積極的に協力しあう集団になりました。

「リオ日学ファミリー」の合言葉のもと、11人の子どもたちがひとつになって努力したからこそ、大きく成長できました。自分一人では得ることのできない貴重なことであり、この経験は必ず生涯の大きな支えとなります。

今年は特に、日伯国交樹立130年の節目の年です。日系の方々が築いたこれまでの歴史を理解し、現代に生きる私たちが身近なところから、しっかり関係を強く結びつけてゆきたいものです。

1学期を無事に終えることができます。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

冬休みが始まります。1学期の復習・読書・お手伝い・家族の団らん・習い事の充実など、気候の変化に負けず、26日間の冬休みを安全に充実してお過ごしください。また次の季節に向けて、教職員一同、努力してまいります。

○ 図書室開放日について

下記の通り図書室を解放します。

この機会に図書室の蔵書に触れ、冬休みを有意義にお過ごしください。

<開放日> 7月22日(火)、30日(水)

○ 終業式校長講話（7月11日）より

1945年6月23日。

皆さんは何の日かわかりますか？これは太平洋戦争で沖縄が終戦をむかえた日です。今年はあれから80年目という節目の年です。沖縄は、4月1日にアメリカ軍が上陸してから84日、悲しい戦争により94000人の民間人を含む20万人の人が亡くなりました。この写真は「鉄の暴風」と呼ばれ、銃弾や火炎放射器によりすべてが焼き尽くされ、集団自決など、私たちの想像できない悲しい現実がここにあります。

写真の方は、私の義母・仲里文江（103歳）さんと義兄です。私の姉が結婚するとき、大学生だった私は那覇の家に泊めていただき、ケンタッキー・フライド・チキン（返還前のなごりで牛肉が安く、とり肉はもてなしの食材だった）やへちまのみそ汁をご馳走になりながら戦争の話をしてもらいました。文江さんは沖縄戦が始まった時23歳、長男が3月に産まれたばかりでした。4月1日にアメリカ軍が上陸する時、皆さんだったら北と南のどちらへ逃げますか？北は「やんばる」という森で、ハブが住んでいます。南は大本営という陸軍の指令室があり、10万人の兵隊がいます。文江さんの判断はやんばるでした。まさのりさんが泣くとアメリカ軍に見つかってしまうため、日本軍の近くにはいられません。やんばるの森で暮らすとき、ガマ（鍾乳洞）や家の形をしたお墓に隠れて過ごしたそうです。日本軍と民間人はその後、南へ南へと敗走し追い詰められて悲しい最後を遂げることになります。文江さんは強い運を持ち、生きながらえましたが、映像の中で「なんでいくさなんかするんだか。いくさせんでもいいのに」とつぶやくと力なく床に伏てしまいました。

6月23日の読売新聞です。小学校6年生の城間くんが書いた作文を読みます。このような現実があったことを私たちは忘れてはならず、日本では、7月から8月はお盆・原爆の日・終戦の日など、亡くなった方の魂を悼む時期です。皆さんも日本人としてこのことを忘れずに、生かされていることに感謝しましょう。実は、文江さんは先月、沖縄慰霊の日の前日に103歳の生涯を終えられました。

今、私たちの国は戦争のない平和な世の中であるといえますが、遠い彼の地で起きている悲しい事実は同じ人間として、あってはならないことです。この世に生を受けて、仲間と出会い、笑って、泣いて、怒って、たくさんの経験ができます。うれしいことも、悲しいことも、悔しいこともあります。命あってこそその人生、生きていればこそ味わえる醍醐味です。リオ日本人学校での出会いに感謝して、11人の仲間、先生方、職員の皆さん、一番は親を大切にしてください。

先日、リオの本屋さんで1冊の本を買いました。その時おまけでしおりをつけてくれたのですが、そこに書かれている言葉に惹かれました。「日本の伝統によれば、私たちはみな『いきがい』＝生きる理由を持っています。それを見つけることがより長く、より幸せな人生を送るカギなのです。」とあります。この冬休みに自分の生きがいについて考えてみませんか。右の図のように、自分のことを項目ごとに当てはめてみると、『いきがい』が見えてくるかもしれません。また、平和に感謝して、節目の年だからこそできることを何かひとつやってみましょう。私は、最近日本の書籍がブラジル人の癒し本として有名になった『ねこを処方いたします。』を原文で読んでみようかなと考えています。

8月7日、皆と元気に会えることを楽しみにしています。